

校内研修における 体育授業研究の意義と課題

島根大学
久保 研二



はじめに

本発表の目的

校内研修で体育授業研究を行う意義をどう説明するか？

校内研修としての体育授業研究の課題は何か？

この2つについて考えてみたい。

はじめに

中央教育審議会(2016)

- ・教師は学校で育つもの
- ・授業研究をはじめとした校内研修の充実を図ることが重要である。

⇒日本の教師文化に根付いた「授業研究」を教師の力量形成の場として活用しようとしている。

はじめに

体育の授業研究

1950年代以降、民間教育研究運動として展開
(木原、2009)

→指導法・教材・カリキュラム開発など

1970年代以降、大学教員による授業記録な
どを分析(大友、1997)

→体育授業の理論を生み出す

はじめに

小学校教師が「力を入れて研究している教科・領域」（ベネッセ教育総合研究所、2010）

1位	国語科	29.5%
2位	算数科	25.0%
3位	体育科	7.8%

→体育科以外を研究している教師が多い

はじめに

体育科を研究しているのは少数派

⇒なぜ、体育の授業研究をするのか説明する必要性がある

授業研究を通して、、、

- 体育授業の指導法などを開発する
- 体育授業の理論を生み出す
 - = 体育科の力量形成をめざす
 - 他教科も同じ理屈が成り立つ
 - = それだけでは、不十分??

はじめに

教科の枠を超えた、小学校教師としての力量形成を意図する必要性があるのではないか？

＝その手段が体育の授業研究

では、どんな力量形成を目指すのか？

はじめに

学級経営

体育授業と学級経営の関係性に着目

授業研究の雰囲気づくり

協議会で率直な意見を言える風土をつくる

☆最初の校内研修に体育の授業研究を！

学級経営（子どもの集団意識）

日野ほか（2000）

- 「体育授業評価」と「学習集団意識」に有意な相関関係がある
- 「体育授業評価」の単元前後の変化
 - 向上群 = 学習集団意識の得点Up
 - 停滞・下降群 = 学習集団意識の得点Down

学級経営（スクールモラル）

細越・鋤柄（2002）

・クラスの雰囲気・学級風土（スクールモラル）と「体育授業態度」には正の相関関係がある

→日野（2000）を追証

つまり、、、、

体育授業がうまくいけば、子どもたちの集団意識が変わる可能性がある！

学級経営

子どもたちの体育授業評価と学習集団意識に
相関関係がある

→学級経営の基礎作りとして体育の授業をうまく
なろう

体育授業の研修をいつするか？

→学級経営の基礎を固める年度初めにして
はどうか？

授業研究の雰囲気づくり

校内研修での授業研究

- 授業計画・授業実践・協議会の3段階
- = 授業計画や協議会で、教師同士が議論する

協議会で大切にしたいこと

- ・参加者全員が主体的に議論に参加すること
 - × 得意な先生が発言し、苦手な先生が聞く
- 専門的知識を前提とした議論は × ？

授業研究の雰囲気づくり

議論の出発点をどこにするか？

佐藤(2006)

×「どう教えるべきだったか」

○「子どもがどこで学んでいたのか、どこでつまずいていたのか」

授業研究の雰囲気づくり

体育科の授業での学びやつまずきの情報

- 運動の成否、試行錯誤は遠目から見える
 - =参加者全員でひとりの子どもを観察することもできる
 - =情報の共有がしやすい

- 教師の経験(運動・指導)によって見えるものが違う
 - =若手もベテランも独自の意見がもてる

授業研究の雰囲気づくり

→つまづく原因は多種多様で正解はない

＝「なぜできない・わからないのかわからない」

ということが起こり得る。

→それを表明しなければ、議論に深まりがない

体育科の協議会では

子どもの学びやつまづきがわかりやすく、

教師のつまづきを表明することに価値がある。

授業研究の雰囲気づくり

体育の授業研究で大切なことは、、、

- ・子どもの情報を共有すること
- ・それぞれの独自の意見をもつこと
- ・わからないことをわからないと言うこと

この3点が参加者に理解されれば、活発な意見交換ができるかも。

→他教科の授業研究でも同じ

＝体育から始めて、他教科の授業研究へ

まとめ

校内研修で体育科の授業研究をする理由

1. 体育科授業の力量を高める
2. 学級経営の基礎をつくる
3. 授業研究の雰囲気をつくる

では、これらの意義を達成するための課題は何か？

今後の課題

授業研究の参加者

授業者と観察者（指導助言者などを含む）

→観察者の方が多い

＝観察者の学びも保障しなければならない

今後の課題

研究対象	研究数	収集した資料		
		授業者	学習者	観察者
現職研究	18	15	0	6
学生研究	28	17	8	12

先行研究の中で収集している資料を確認すると、
現職研究では、あまり観察者に注目していない
→観察者の学びについての研究が必要

今後の課題

現職研究で観察者の資料を収集した研究

木原・久保(2015)

協議会での発言(授業者・観察者・指導助言者)を分類

森(2009)

協議会での発言(授業者・観察者)を解釈

森ほか(2009)

授業VTRを視聴して記述したフリーコメントを分類

岩田ほか(2006)

実習生の実習日誌に記述された指導教員の指導内容を分類

村井ほか(2011)

教育実習での協議会における指導教員の発話記録を分類

西原・生田(2013)

オンゴーイング法と再現認知法の発話の差の分析

今後の課題

木原・久保(2015)＝1事例を分析

分類基準

実践の表象に関わる発話分類カテゴリー
(坂本、2013)

「対象授業の表象」「推論」「問題の表象」

「可能性の想定」「代案」「その他」

＝観察者は「問題の表象」が比較的多い

今後の課題

木原・久保(2015)

=立場によって、発話の質が違う可能性がある

→観察した事実を自分自身の力量形成に繋げているかは不明

観察者が、①何を観察して、②観察した情報をどのように意味づけ、③自身の力量形成に繋げているか、は分かっていない

→これらを明らかにしていく必要がある

引用参考文献(主なもの)

- ベネッセ教育総合研究所(2010)第5回学習指導基本調査(小学校・中学校版)[2010年].
<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=3243>. (参照日:2017年6月1日)
- 中央教育審議会(2016)これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い, 高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申).
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf(参照日:2017年6月1日)
- 細越淳二・鋤柄純忠(2002)子どもの体育授業態度評価と学級に対する意識との関係. 茨城キリスト教大学紀要II社会・自然科学. 35:99-109.
- 日野克博・高橋健夫・八代勉・吉野聡・藤井喜一(2000)小学校における子どもの体育授業評価と学級集団意識との関係. 体育学研究, 45(5):599-610.
- 木原成一郎(2009)民間教育運動における体育の授業研究. 日本教育方法学会編 日本授業研究上巻. 学文社:東京, pp.77-87.
- 木原成一郎・久保研二(2015)小学校体育授業に関する教師の学習過程:研究授業後の協議会における談話分析を中心に. 体育学研究, 60(2): 685-699.
- 厚東芳樹・梅野圭史・林修・高村賢一・上原禎弘(2005)小学校体育授業に対する教師の反省的思考に関する研究:高学年担任教師の学習成果(態度得点)の相違に着目して. スポーツ教育学研究 25(2), 87-99
- 久保研二・木原成一郎(2013)教師教育におけるリフレクション概念の検討:体育科教育の研究を中心に. 広島大学大学院教育学研究科紀要第一部学習開発関連領域, (62):89-98.
- 森勇示(2009)体育授業における教師の実践的知識の形成過程--教師との対話事例を手がかりに. 愛知教育大学教育実践総合センター紀要, (12):207-212.
- 森勇示・兒玉英華・服部友紀・青山裕美(2009)体育授業における技術的実践の問題性. 愛知教育大学研究報告芸術・保健体育・家政・技術科学・創作編, 58:29-34.
- 村井潤(2015)小学校教育実習の授業協議会における実習生の発言内容に関する事例研究. 体育学研究, 60(1): 249-265.
- 大友智(1997)授業研究の歩み. 竹田清彦他編 体育科教育学の探求. 大修館書店:東京, pp.348-359.
- 佐藤学(2006)学校の挑戦:学びの共同体を創る. 小学館:東京.